

「小さな幸せ時間」を提供できるほしいも農家を目指して

その他（研修）



派遣先農家の栽培技術指導

1

就農相談までの背景

農業集落で育ち、農業、自然に興味や親しみがあり、特にほしいもには興味があった。以前から事業主になりたいという思いがあり、30歳になったときに一念発起して地元でほしいも農家をやろうとUターン。実際に地元で農業・ほしいも生産に携わり、独立就農を改めて決意した。

支援制度を活用した、技術習得のための研修、農地確保について相談するため、「茨城県農業経営・就農支援センター」（以下「支援センター」という）へ相談した。

2

相談内容

非農家出身であるため、ほしいも農家として独立就農するにあたり、必要な設備や機械等を所有しておらず、初期投資に活用できる支援制度について具体的に知りたい。その他、就農希望地で認定新規就農者になるために必要なことは何か、就農希望地に借用可能な農地はあるか相談したい。

また、栽培技術を習得できる研修先を紹介してほしい。

3

支援内容

● 研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、就農イベント等で相談者と就農相談を重ねながら、相談者の就農意欲、就農希望地、希望栽培品目等の確認を行い、就農準備資金を活用した技術研修制度について案内した。

就農希望地を管轄する農業改良普及センター（以下、「普及センター」という）と連携して研修先となる派遣先農家の候補を選定し、インターンシップを通して相談者と派遣先農家候補とのマッチングを行った上で、研修先となる農家を決定し、普及センターが研修計画等作成を支援して研修を開始した。



茨城県新規就農相談センター主催の就農相談会

今後の意気込み

研修を通してほしいも農家のいろはと農業経営を学んでいます。美味しいほしいもを作り顧客に「小さな幸せ時間」を提供できるほしいも農家を目指します！そのために良質なさつまいも栽培とほしいも加工を頑張っていきます。農業経営者としてはブランディング・マーケティングにも注力し、利益も追求し健全かつ持続的な農業経営を目指していきます！

概要

◆ 氏名・所在地

鬼澤 和久 茨城県ひたちなか市

◆ 研修開始年

令和6年4月

◆ 研修内容

ほしいも農家として就農することを希望し、就農準備資金を受けることができる認定研修機関である公益社団法人茨城県農林振興公社（以下、「公社」という）において1年間の長期研修に取り組んでいる。

2

● 関係機関との連携による取組

初期投資に対する支援制度や認定新規就農者制度については、就農希望地の自治体の農政課を、農地確保の相談については、就農希望地の農業委員会を紹介し、それぞれ研修を行ながら情報収集を行うよう助言した。

引き続き、県の認定研修機関である公社と普及センターで研修生の研修状況確認を密に行い、関係機関と連携して、就農に向けた細やかな支援を行っていく。



就農希望地の先輩農業者、新規就農希望者等での意見交換会

専属スタッフ所感

支援センターの機能のうち、就農支援を担う茨城県新規就農相談センターの業務を担う公社は、就農準備資金に係る県の認定研修機関にも指定されているため、独自のカリキュラムによる研修を提供するとともに、関係機関と連携して、将来儲かる農業経営を実現する資質の高い農業者を育成すべく、就農支援を行っています。

鬼澤氏に関しても、研修先農家の学びをもとに、「経営者マインド」を持った地域を牽引する担い手となることを期待しつつ支援にあたっております。



圃場で作業する高橋氏

1

就農相談までの背景

自分で作り上げる生産という仕事に強い興味があり、作るなら自分も大好きで、みんなにも喜んでもらえる物がよいと考えた。栃木県の名産であるいちごは需要も高く、収益性も見込めるため新規就農するには最適な作物だと考え、いちごを志望した。

何から始めれば良いか分からなかったため、「とちぎ農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」へ相談した。

2

相談内容

元々会社員として働いていたが、研修後、独立就農して、本格的にいちご栽培を行いたい。

しかし、技術面や資金面に課題があることから、就農に向けた栽培技術の習得方法や支援制度等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、栽培技術習得研修や就農準備資金、経営開始資金、認定新規就農者制度について説明した。

また、栽培品目と就農地が定まっていたことから、該当地域を管轄する支援センターのサテライト窓口である河内農業振興事務所を紹介し、事務所では研修制度の要件確認と、いちご栽培技術を学ぶための派遣研修先となる宇都宮市農業公社との調整を行った。

その後、宇都宮市就農サポートチームで研修計画作成支援を行い、宇都宮市農業公社での研修を開始した。

宇都宮市農業公社において、実践的な農業技術や農政にかかる基礎知識、農業経営者としての自立に向けたカリキュラムや農家派遣研修を受けた。



相談対応の様子

今後の意気込み

皆さまのおかげで無事に就農できました。

就農1年目の現在はハウス5棟ですが、2年目には8棟、3年目には12棟に増やして、規模拡大していきたいです。

概要

◆氏名・所在地

高橋 有希子 栃木県宇都宮市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

いちご栽培での就農を希望し、（公財）宇都宮市農業公社での1年間の長期研修に取り組んだ。

3

相談内容

元々会社員として働いていたが、研修後、独立就農して、本格的にいちご栽培を行いたい。

しかし、技術面や資金面に課題があることから、就農に向けた栽培技術の習得方法や支援制度等について具体的に知りたい。

支援内容

●関係機関との連携による取組

河内農業振興事務所と宇都宮市農業公社が、研修生や研修指導者に対する現地での定期的な研修状況の確認や個別相談対応を随時行った結果、順調に栽培技術を習得していることを確認できた。今後も市町村等と連携して、引き続き就農・定着に向けて支援していく。

●就農市町村の決定

研修を受けながら、地域の就農サポートチームで農地や施設の取得、資金確保、青年等就農計画の作成等の支援を行った。

結果、農地も確保され、就農への目処がたった。



研修会の様子

専属スタッフ所感

支援センターは就農希望者のワンストップ窓口となっています。就農相談に来る方は、栽培品目や就農地が決まっていない方、移住まで検討している方、既に農業の方向性は定まっているが支援制度を知りたい方、農地の確保を図りたい方等様々であるため、相談内容に応じ、県農業振興事務所、市町村、JA等に繋げています。

今回の相談者は内容が具体的であり、意欲が高かったため、いち早く実践的な研修に入れるよう対応しました。



渡辺氏御夫妻（向かって右が翔月氏）

1

就農相談までの背景

農業高校を卒業後、北海道の酪農家の下で研修を受けその後は群馬県で酪農ヘルパーとして就農希望を持っていたが、物価高騰等の情勢もあり露地野菜での就農を志すことになった。

就農希望地域に適した品目での就農を実現するため、技術研修や支援制度について渋川地区農業指導センターへ相談した。

3

● 営農計画作成と研修実施の相談対応

地域の特性にあった品目での就農を目指すものの、その栽培技術を身につける研修先が課題となった。就農希望地域にはマッチする研修先がなく、地域をまたいで西部農業事務所等と連携して研修先を探すこととした。

● 技術研修の実施

就農準備資金を活用するにあたり、就農地と異なる地域での研修であるため、渋川地区農業指導センター、西部農業事務所、JA、農業経営・就農支援センター、県で連携して研修を支援した。



技術研修の様子

今後の意気込み

まずは経営を安定させ、後々は地域性を考慮し、自然環境に配慮した農業に取り組んでいきたい。また、地域の担い手として、農業を活気づけていきたい。

研修先の選定や、諸々の支援策の活用支援等、とても丁寧に対応してもらえた。地域を引っ張る担い手として貢献していきたい。

概要

◆ 氏名・所在地

渡辺 翔月氏 群馬県北群馬郡榛東村

◆ 就農年

令和6年4月

◆ 経営規模

プロモニ-0.8ha、スイートコーン0.3ha、露地ナス0.1ha、水稻1.6ha

◆ 従業員数

家族労働2名、パート3名

◆ 事業内容

水稻や露地野菜の栽培に取り組む。

2

相談内容

「将来的に地元で酪農を営みたい」という想いで就農相談を進め、まずは就農地予定の榛東村で推進している露地野菜や水稻での就農を志すことになった。

酪農以外の知識は不十分だったので、技術習得や資金の準備、就農に向けた段取りなど専門的観点からの助言が必要だと実感したため、相談した。

支援内容

● 研修中のフォローアップ

西部農業事務所、農業経営・就農支援センターが農業経営者としての自立に向けたカリキュラムや研修を実施した。また、研修生や研修指導者に対する研修状況の確認等を行い、栽培技術の取得と就農に向けた準備状況を確認した。

● 就農後のフォローアップ

渋川地区農業指導センターやJA、市町村、農業経営・就農支援センター、県が連携して、就農後の栽培技術や経営面でのフォローアップを実施している。



農業機械研修を受ける様子（右から3人目が渡辺氏）

専属スタッフ所感

多くの就農希望者が、夢のような実現の難しい営農計画を作成しがちですが、この方は、実現性の高い計画を早い段階から作り込んでいました。また、行動力も優れており、就農一年目から様々なことにチャレンジしています。

販路も積極的に開拓しており、栽培、販売の取り組みをSNSで発信し、就農1年目にして、既にお客さんの心をしっかりとつかんでいることにも感心しています。

いちご観光農園に夢を持って新規就農をスタート

自営就農



君島氏

1

就農相談までの背景

市役所に勤務し新規就農者の支援を行う中で、高設いちご栽培に興味を持ち、自ら生産者になることを目指した。栽培技術を習得するため、他県の農業法人で半年間勤務したが、その後地元での自営就農を決意した。

計画的な自営就農を実現するべく情報収集をしていたところ、「埼玉県農業経営・就農支援センター」を知り、サポート窓口である普及指導センターへ相談することとした。

2

相談内容

2

農業法人で勤務したため、いちご栽培に関する技術や知識は多少あったものの、地元に根差した経営をしていきたいと考え、研修などができる地域の指導農業士等の紹介を依頼した。

また、農地の情報や補助事業等の行政による就農支援制度について相談したい。

3

支援内容

●就農に関する情報提供

県の就農支援制度や、国の補助事業について情報提供を行った。また、開業に必要な資金を圧縮するため、中古ハウスの活用を提案した。

●研修先の紹介

普及指導センター管内の指導農業士を紹介し、指導農業士が経営する農業法人に就職し、約2年間いちごの栽培や経営を学ぶ実践研修を行った。



相談対応の様子

今後の意気込み

普及指導センターで研修先として紹介してもらった指導農業士の農業法人で、約2年間いちごの栽培技術や経営等を学ぶことができました。

現在、16aの栽培ですが、今後、栽培面積を拡大し、観光農園や直売所以外の販路開拓も行っていきたいと考えています。

概要

◆氏名・所在地

君島 つぐみ 埼玉県川越市

◆就農年

令和6年4月

◆経営規模

いちご 0.16ha

◆従業員数

家族労働 3名

◆事業内容

いちごの高設栽培に取り組む。

2

相談内容

農業法人で勤務したため、いちご栽培に関する技術や知識は多少あったものの、地元に根差した経営をしていきたいと考え、研修などができる地域の指導農業士等の紹介を依頼した。

また、農地の情報や補助事業等の行政による就農支援制度について相談したい。

3

●関係機関との連携による自営就農支援

農地と中古ハウスの確保に向けては、市や農業委員会が支援し、就農に向け具体的な動きが進展した。

また、就農に向け、青年等就農計画の作成支援や、経営開始資金及び経営発展支援事業の活用について、関係機関と連携しサポートした。

このほか、経営力向上のため県で開催する農業経営塾の受講支援を行った。



県育成品種「べにたま」も栽培

専属スタッフ所感

相談者は、就農におけるビジョンが明確化されており、研修先でも意欲的に栽培技術等の取得に取り組まれていました。また、就農地を当初の希望から変更するなど柔軟に対応することで、農地及び中古ハウスを確保することができました。

今後も、栽培面積の拡大や経営発展等の希望があるため、必要に応じて支援を行っていきます。

令和6年

自営就農

埼玉県



久保氏

1

就農相談までの背景

前職は動物看護師であり、農業には全く携わったことがなかった。妻の実家が農家であったことから、農業に興味を持ち始め、後継者になることを決意した。

新規就農者の相談窓口についてネットで調べたところ、「千葉県農業経営・就農支援センター」の存在を知った。

概要

- ◆ 氏名・所在地
久保 将人 千葉県富里市
- ◆ 就農年
令和6年7月
- ◆ 経営規模
ニンジン、ジャガイモ、カボチャ、メロン 0.8ha
- ◆ 従業員数
家族労働 1名
- ◆ 事業内容
露地野菜の栽培に取り組む。

2

相談内容

農業の知識がほとんどなく、千葉県の農業の状況や、農業を始めるにあたっての技術面や資金面の課題解決や何から始めたら良いかなどの専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、幅広く相談したい。

また、経営開始資金や経営発展支援事業の活用方法に関して相談したい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介

農業の基本から学びたいという要望を受け、千葉県農業大学校を紹介したところ、農業研修科への入学に至った。

農業大学校では、カボチャの栽培や土づくりについて学び、技術や知識を習得し、実践につなげることができた。

●就農計画の作成支援

農業大学校を卒業後、青年等就農計画を作成する上で、品目の選定や導入機械、経営収支等を検討した。作成にあたっては、久保氏が取り組んでみたい品目を選定する一方で、義両親の経営も参考にして、独立就農に向けて準備を進めていった。



セミナーでの自己紹介の様子（久保氏は左から2番目）

●関係機関との連携による総合支援

補助事業を活用するにあたって、市役所と連携し相談対応を行った。また、実践的な技術面での相談については、普及指導員と協力し、解決策に向けた指導、情報提供を行った。

●地域の仲間づくりや資質向上に向けた取組

営農開始後は、地域の農業者とのつながりが重要であることから、普及指導センターが開催している農業経営体育成セミナーに参加を促した。

セミナーに継続して参加することで、経営の課題である、よりよい土づくりに向けた取り組みを明確にすることができた。



セミナーでの意見発表の様子

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「農作業等を体験した程度」です。就農のイメージができるよう、農業の技術面や経営面、地域農業の概要等を説明しています。

相談者は、産地の主要品目であるトマトやニンジンの栽培に取り組まれ、土づくりにこだわった栽培を目指されています。今後は施設野菜の面積拡大の意向があり、地域の担い手として経営発展していくことを期待いたします。

今後の意気込み

日々失敗も含めて勉強する毎日です。今は近隣や組合の先輩方、関係機関の方々からのアドバイスにお世話になつてばかりですが、いずれはよくやっているなと認めていただける事を目標に励んでいきます。



松村氏

1

就農相談までの背景

幼少期に、自身が育てた野菜を食べた人たちが喜んでくれたことがきっかけで農家を目指すようになった。高校・大学で農学を学び、卒業後は園芸の専門学校に入学したが、未来の農業者の卵達と共に過ごす中で、農業に対する考え方があがかったことを痛感した。

前職の雇用先で貸農園で栽培指導をしていたが、農業とは無関係だった農園利用者たちが農業に関心をもつようになった。そのことから、「農業のすばらしさを多くの人に伝えたい」と思うようになり、**農家になるための手順等を知るため、「神奈川県農業経営・就農支援センター」へ相談した。**

2

相談内容

2

県内の地域ごとの就農要件や支援状況、就農地の選定について相談した。また、農業技術の習得のために、アカデミーに入校することを考えていたことから、入校までに準備することや入校してからの心構え等を相談した。

アカデミー入校後は、就農地の相談や青年等就農計画の策定方法について相談した。

3

支援内容

●地域ごとの就農状況等の情報提供

県内市町村の就農要件や支援状況の他、県内の農業や新規参入者の現状について情報提供した。

また、アカデミーへの入校に向けて、必要な準備についてアドバイスを行った。

●農地利用や生活面の相談対応

就農地の選定・生活資金面など、農業を始める上で必要な情報を提案した。



実習で管理機を操作する松村氏

今後の意気込み

これまで紆余曲折ありながらも、幼少期から目指してきた農家という道を、就農相談で歩み出すことができました。

アカデミーや研修先等で学んできた知識や経験を活かし、横浜市で農業に真摯に向き合い続けたいと思います。

概要

◆氏名・所在地

松村 崇司 神奈川県横浜市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

露地栽培での就農を希望し、神奈川県立かながわ農業アカデミー（以下「アカデミー」という。）で1年間の研修に取り組んでいる。

2

相談内容

県内の地域ごとの就農要件や支援状況、就農地の選定について相談した。また、農業技術の習得のために、アカデミーに入校することを考えていたことから、入校までに準備することや入校してからの心構え等を相談した。

アカデミー入校後は、就農地の相談や青年等就農計画の策定方法について相談した。

●青年等就農計画の作成支援

作付け計画、販売方法、農業所得算出、単価の設定等についてアドバイスを行い、就農計画の作成を支援した。

●就農市町村の決定

アカデミーから派遣された実習先の農家の協力により、農地の他、作業場や農業機械等の置き場を確保できることになり、就農地が決定したことから、**研修終了後には独立就農することが期待される。**



実習で支柱をたてる松村氏（左）

専属スタッフ所感

相談者は栽培技術の面では問題ありませんでしたが、生業としての農業を考える上で資金面に課題がありました。しかし、アカデミーのカリキュラムの一環である先進農家派遣研修でお世話になった農家から、農地や農業機械等を借りていただけるという多大な協力を受けることになりました。松村さんの誠実な人柄と農業への熱い思いが農家に伝わり、信頼関係を築くことができた結果、独立就農への道が開いたのだと思います。これからも、「農業のすばらしさを多くの人に伝える農家」になるよう支援しています。



就農相談の様子

1

就農相談までの背景

これまでの職務経験の中で、1次産業の生産者と関わり、農業に关心を持った。その後、新・農業人フェアで山梨県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）からの説明や、知人農家から農業の魅力や栽培の面白さを聞いたこと等をきっかけに、山梨県で果樹栽培をしたいと考えるようになった。**何から始めれば良いか分からなかつたため、「就農相談会in峡東（山梨県峡東地域普及指導センター主催）」へ参加した。**

2

相談内容

山梨県に移住して、ブドウ栽培を行いたい。しかし、**全くの農業未経験のため、雇用就農に向けてまずは技術や知識をよく学び、将来的には独立してブドウ農家を目指したい。**

農業経験や山梨の土地勘が全くないことから、就農に向けての流れや支援制度等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

就農相談会では、普及指導センターや支援センター等が相談対応を行った。小川氏は農業経験が全くないため、**希望するブドウの栽培を実際に体験できる、県の農業体験事業である「チャレンジ農業体験」を説明した。**

その後、関係機関と連携し、体験先農家の紹介や日程調整を行った。

●チャレンジ農業体験の実施

農業体験により、農作業の適性を確かめることができ、農家の話を直接聞き、就農意欲が高まった。

体験終了後、雇用就農に向けて技術や知識を身につけるため、農林大学校の職業訓練科の受講準備を本格的に進めることになった。



体験先でのブドウの剪定作業

今後の意気込み

今は憧れを持ち続けていた農業に携われるという期待と希望でいっぱいです。まずは、山梨県立農林大学校の職業訓練科コースに通い、そこでしっかりと基礎を身につけた上で雇用就農を目指します。ゆくゆくは独立し、美味しい果物を生産できる立派な農家になれたらいなと思います。

概要

◆氏名・所在地

小川 理志 東京都港区

◆研修開始予定年

令和7年4月

◆研修内容

ブドウ栽培での就農を希望し、短期農業体験を経て、4月から農林大学校の職業訓練科での長期研修に取り組む予定。

2

相談内容

山梨県に移住して、ブドウ栽培を行いたい。しかし、**全くの農業未経験のため、雇用就農に向けてまずは技術や知識をよく学び、将来的には独立してブドウ農家を目指したい。**

農業経験や山梨の土地勘が全くないことから、就農に向けての流れや支援制度等について具体的に知りたい。

支援内容

●関係機関との連携による取組

小川氏は、農業体験中に宿泊施設ではなく就農後の暮らしがイメージできる場所で過ごしたいという希望を持っていたため、普及指導センターは市と連携し、市のお試し住宅に滞在できるよう調整した。

農業体験と市のお試し住宅制度を活用することで、山梨県で就農して暮らすイメージを明確化することができた。

今後も関係機関と連携し、引き続き就農に向けて支援していく。



体験先農家からの指導の様子

専属スタッフ所感

会社を退職し、将来的には果樹の独立就農を目指したいという希望であったため、農地確保と栽培技術習得のためには、長期的な研修履修をすることが早道と伝えました。

農業を行うためには技術力だけでなく経営力も必要となるため、研修や雇用就農を通じ、地域農家や農業法人との繋がりをつくり、独立時の糧としていただきたいです。



ものせん定を行なうY氏

1

就農相談までの背景

前職では、林業関連の会社に約10年間勤務。人生の次のステップとして新しいことを始めたいと考えた時、学生時代に授業で体験した「農業」に興味を持った。自分なりにビジョンを描いてみたものの、どんなステップがあるのか、どんな品目がよいのかなど、わからないことが多かったため、「長野県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」及び「普及指導センター」へ相談した。

概要

◆ 氏名・所在地
Y. T 長野県長野市

◆ 研修開始年
令和7年4月

◆ 研修内容

もも・りんご栽培での就農を希望し、長野県新規就農里親制度による2年間の長期研修を開始する。

2

相談内容

独立就農して果樹栽培を行いたい。そこで、経験の無い自分がイメージする品目が適切かどうか、就農に向けたステップとしてどんな方法があるのか（研修制度か法人就業か）、どのような支援制度があるのか等について具体的に知りたい。

3

支援内容

● 関係機関との連携による相談活動

支援センターと普及指導センターとで情報を共有し、連携して相談にあたった。支援センターでは、方向性を決める上で判断材料となる情報の提供を行った。Yさんは当初イメージしていた品目の情勢や特徴、地域のお勧め品目、研修制度の仕組みと支援策、法人就業の留意点等を説明した。普及支援センターでは、長野市やJAとも連携し、独立就農までのプロセスと、家族であらかじめ話し合っておいていただきたいことなどを助言した。

● 農作業体験の紹介

最初に相談いただいた時点で、Yさんには果樹での十分な農作業体験が無かつたため、農業バイトや県農業大学校が行う農業体験などの研修方法を紹介した。そこでYさんは、果樹農家でのアルバイトを開始し、JAにも自ら足を運んで相談をするなど、体験と情報収集を積み重ねていった。体験に基づき、自分に合った品目を決めて就農プランを立て、資金計画も家族で話し合いながら、農業への想いを固めていった。

● 研修方法や研修先の決定

品目、就農プランが明確になったので、改めて今後の研修方法について関係者も交えて話し合った。

長野県では、就農後の早期の経営確立を目指し、里親農業者による実地研修と農業大学校研修部での集合研修を組み合わせた「新規就農里親研修」を実施しており、令和7年4月より里親研修を始めることになった。

今後の意気込み

希望する地域で「果樹農家になりたいんです」と言うと「農家は大変だけど良いぞ」と応援してくれる先輩農家の方が、多いことが頼もしく、とても励みになっています。

就農に向けて2年間の研修が始まるが、決して受け身にならず、常にアンテナを張り地域の担い手となる様に頑張ります。

● 研修開始までの支援

里親研修制度は、受け入れていただく里親農業者との事前の調整が重要であることから、2年間の研修計画と研修の進め方をYさんと里親農業者でよく話し合って決めていただいた。

普及指導センターでも、計画の内容について助言するとともに、研修にあたっての「申し合わせ事項」を取り決め、今後、深い関わりとなる長野市、地元農業委員、JAが立ち会いの元「調印式」を実施し、関係者で研修内容の共有を図り、関係者が一丸となってYさんの独立を支援していくことを確認した。



研修内容に関する「申し合わせ事項」に署名をする
Y氏(左)と里親農業者(右)

専属スタッフ所感

Yさんは、相談や体験を重ねることでイメージが明確になり、研修方法や品目が絞られていきました。支援センターと普及指導センターが情報を共有し、スムーズな相談に繋がりました。今回は、就農地が決まっており、独立への意思が明確、本人の行動力などから、早い段階で長期研修が決まりました。支援センターは最初の相談窓口ですので、漠然としたご相談でも大丈夫です。相談を重ねることで方向性が見えてくるようにお手伝いしています。



戸田氏

1

就農相談までの背景

前職で小売業に勤務していたが、将来の生活設計で夫婦でできる職業を考えていた。仕事柄細かい作業をしていたことから農業に興味を持った。その後、農業を始める手順や品目等わからなかったため、ネットを通じて調べたところ、**静岡県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）**で就農相談窓口「しづおかで農業になる」があることを知り、相談した。

2

相談内容

2

夫婦で農業を考えており、今後**独立就農して、本格的に農業経営を行いたい。**

しかし、就農に際して農地取得や選択する品目・技術面等不安な課題があることから、就農に向けた方法について具体的に知りたい。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、「がんばる新農業人支援事業」による独立プログラムの説明をした。

また、栽培品目と就農地が定まっていないことから、興味のあったイチゴで「短期農業インター受入事業」に応募することにし、管轄する**支援センターのサテライト窓口である普及指導センター**を紹介。普及指導センターでは研修制度の要件確認とイチゴの栽培技術を学ぶため派遣研修先となる生産者2名を紹介した。

研修終了後、「がんばる新農業人支援事業」に応募し、面接選考のうち、1年間の研修を開始した。



短期研修の様子

今後の意気込み

農業に関する知識がない中、漠然としていたところから、実際研修を実施し、受入農家の指導や関係機関の就農に向けた支援をいただき、1年後の独立就農に向けてイメージが出来てきました。今後も頑張ってイチゴの技術研鑽をしていきたいです。

概要

◆氏名・所在地

戸田 隆博 静岡県伊豆の国市

◆研修開始年

令和6年12月

◆研修内容

イチゴ栽培での就農を希望し、「がんばる新農業人支援事業」にて地元農業経営者の指導のもと、1年間の研修に取り組んでいる。



圃場での作業の様子

専属スタッフ所感

就農相談に来る方は、漠然と農業に興味があるという相談から、半農半X的農業を希望する方、独立就農を目指す方など様々です。また、相談窓口が分からないという方も多くあります。

支援センターはワンストップで相談対応する組織ですので気兼ねなく相談して下さい。また、県では研修制度や受入体制も充実していますのでスムーズな形で研修できます。